

民俗学・芸能研究者必携 戦中の貴重な芸能資料がここに復刊

夫 信 口 折 修 監

# 能 藝

(昭和十八年五月～昭和十九年九月) 復刻版

伊藤好英 監修・解説 藝能学会 企画

戦前の折口信夫らによる貴重な芸能雑誌を復刻。日本古来の「芸能」の発展を振り返り、史的考察を加える。また歌舞音曲、あるいは民俗的年中行事の中に息づく土着の神楽・祭事など、多方面から様々な「芸能」に光を当てている。

附録として『舞踊藝術』連載 折口

信夫「日本芸能史(全六回)」、および

池田彌三郎ノート 折口信夫 公開講座

「日本芸能史」も収録する。



折口信夫監修『藝能』の刊行

藝能学会会長 伊藤好英

藝能学会が創立されたのは、太平洋戦争が激化し深刻な状況となり始めていた昭和十八年四月であった。折口信夫監修『藝能』は、同会が同年五月から翌十九年九月にかけて刊行した「芸能」を対象とする月刊の学術誌である。...

しかし、折口は昭和三年に慶應義塾大学で「芸能史」の名の授業を開講し、それを亡くなる年まで続けており、彼個人としては「芸能」という語を、演劇や音楽のみでないパフォーマンス・アート全体を指す言葉として使用し続けている。...

藝能 (昭和十八年五月〜昭和十九年九月)

第九巻 第五号 (五月号) 力の源を育てよ 金田一京助◎正名の説 奥野信太郎◎日本芸能の伝統 石井順三◎民俗的意義の闡明 藝能学会創立趣意書 日本芸能観の確立 大山功◎京人形(をどりの小道具その三五) 小寺融吉◎宮尾しげを◎前清宮廷劇の回想 曹心泉◎二つの舞踊コンクール 小寺融吉◎劇壇の舞踊 柏村三千雄

第九巻 第六号 (六月号) 日本芸能について 折口信夫◎前清宮廷劇の回想(下) 曹心泉◎傾城反魂香のこと(丸本物巡礼その十一) 戸板康二◎源太(をどりの小道具その三六) 小寺融吉◎宮尾しげを◎歌舞伎劇の新研究 大山功◎清元延壽太夫略年表 柏村三千雄◎はな 兼常篤子◎役者氣質 戸板康二◎清元延壽太夫の芸術 田中青滋◎劇壇の舞踊 柏村三千雄◎作物の剽竊 赤堀水衛◎省略上演 古屋野安◎舞踊界放送室 村松呉山人

第九巻 第七号 (七月号) 招魂の御儀を拝して 折口信夫◎支那劇の原始形態について(一) 奥野信太郎◎熊野下里の獅子舞 松本芳夫◎忠臣蔵のこと(丸本物巡礼その十二) 戸板康二◎猿舞(をどりの小道具その三七) 小寺融吉◎宮尾しげを◎雪まつり(短歌) 釋道空◎古典劇への対決 大山功◎劇壇資料 柏村三千雄◎舞踊半歳記 今春の舞踊界回顧 江口博◎舞踊雑感 山本久三郎

第九巻 第八号 (八月号) 新能の発生 折口信夫◎支那劇の原始形態について(二) 奥野信太郎◎総力戦に於ける芸能体制確立と学者の責任◎春駒・一人枕久(をどりの小道具その三八) 小寺融吉◎宮尾しげを◎忠臣蔵のこと(二)(丸本物巡礼その十三) 戸板康二◎歌謡書二三 藤田徳太郎◎音盤蒐集 田邊尚雄◎宮島・博多・彦山 飯塚友一郎◎薪能拝観記 慶應国文研究会◎劇壇資料 柏村三千雄◎図書選奨 折口信夫

第九巻 第九号 (九月号) 支那劇の原始形態について(三) 奥野信太郎◎六齋念仏 山梨県北都留郡秋山村字無上野 大森義憲◎高砂丹前(をどりの小道具その三九) 小寺融吉◎宮尾しげを◎芸能図書の氾濫と著者の態度 磯良志賀雄◎国策劇と作家の態度 土井潤三◎芸能改良と指導者の態度 山福太郎◎劇壇資料 柏村三千雄◎波多郁太郎さんのこと 編集委員記◎統忠臣蔵年表 柏村三千雄

第九巻 第十号 (十月号) 支那劇の原始形態について(四) 奥野信太郎◎芸能政策確立への課題 飯塚友一郎◎夜這星(をどりの小道具その四〇) 小寺融吉◎宮尾しげを◎舞踊 邦楽 演劇 能楽◎芸能一般 村松呉山人◎芸能日記 小山福太郎

第九巻 第十一号 (十一月号) 口絵 師の房(解説 折口信夫)◎国学の学徒よ 折口信夫◎「狂言」泣尼」に就いて 古川久◎奥羽の神楽、其他 本田安次◎国家と芸能(座談会)◎高辻武邦・吉川覺・川端康成・小島政二郎・室生犀星・横光利一・折口信夫・桑木来吉◎矢代目吉神社の祭祀と田楽 新井恒易◎支那劇の原始形態について(五) 奥野信太郎◎嫁菜摘(をどりの小道具その四二) 小寺融吉◎宮尾しげを

第十巻 第一号 (一月号) 口絵 男鹿のなまはぎ・八重山島の翁(解説 折口信夫)◎壮行

て、「芸能」の学がその輪郭をより明確化していったことは間違いないところであろう。ところで名前の獲得は遅れるとしても、内容的には、このような芸能研究は昭和初期から活発になってきていた。昭和三年から六年まで出された『民俗芸術』や、昭和十年から十三年までの『日本民俗』は、民間芸能を含む芸能研究誌の性格を強く持つものであったし、昭和十一年創刊の『舞踊芸術』(昭和十八年四月まで継続、この雑誌が同年五月から「藝能」と改題される)は、新芸術の観点から舞踊を広く論じたものである。「藝能」は、それらの研究視座を引き継いで、この時期唯一の芸能研究誌として発行されたのである。...

復刻版 収録一覧・内容紹介

歌 折口信夫◎狂言の三番叟に就て 古川久◎神楽の三番叟 本田安次◎北原熊野神社の祭祀と田楽 新井恒易◎国家と芸能(座談会)◎高辻武邦・吉川覺・川端康成・小島政二郎・室生犀星・横光利一・折口信夫・桑木来吉◎歌舞伎語彙(一) 戸板香實

第十巻 第二号 (二月号) 神楽歌論講(一) 折口信夫・藤田徳太郎・西角井正慶・高崎正秀◎「加賀見山」おぼえ書 河竹繁俊◎昭和十八年度著作検討(座談会) 藤田徳太郎・西角井正慶・高崎正秀・石井順三◎歌舞伎語彙(二) 戸板香實◎お光狂乱(をどりの小道具その四二) 小寺融吉◎宮尾しげを◎梅若六郎氏に父尉延命冠者之式を聴く 河合忠兵衛◎河竹繁俊著「歌舞伎史の研究」について 桑木来吉

第十巻 第三号 (三月号・四月号合併) 神楽歌論講(二) 折口信夫・藤田徳太郎・西角井正慶・高崎正秀◎上野条御勝八幡宮の祭祀と田楽 新井恒易◎昭和十八年度著作検討(座談会) 藤田徳太郎・西角井正慶・高崎正秀・石井順三◎歌舞伎語彙(三) 戸板香實

第十巻 第四号 (五月号) 三信冬祭記 藤田徳太郎◎粟餅・俄鹿島踊(をどりの小道具その四三) 小寺融吉◎宮尾しげを◎歌舞伎語彙(四) 戸板香實

第十巻 第五号 (六月号、新発定号) 小アトの存在意義 狂言の役柄に就て 古川久◎歌舞伎劇の新生・その理想と現実 上演狂言の可否 三宅三郎◎東北芸能の特殊性 山伏神楽・番楽に就いて 本田安次◎神楽歌論講(三) 折口信夫・藤田徳太郎・西角井正慶・高崎正秀・桑木来吉◎三信冬祭の記(二) 藤田徳太郎◎奥野信太郎著北京雜記を読む 仁井田陞◎歌舞伎語彙(五) 戸板香實◎演劇資料(東京・六月分) 柏村三千雄◎芸能界一般資料(五月分) 古澤武夫

第十巻 第七号 (八月号) 現代支那劇場概観 須田敦夫◎トルバドールの音楽 ジャン・ベック◎南方方面の人形劇及び影絵劇に関する参考文献 小澤愛因◎神楽歌論講(四) 折口信夫・藤田徳太郎・西角井正慶・高崎正秀・桑木来吉◎黒沢阿弥陀堂の田楽(承前) 新井恒易◎歌舞伎語彙(五) 戸板康二◎書評 桑木来吉◎劇壇資料(帝都八月各座) 柏村三千雄◎一般芸能界資料(七月) 古澤武夫

〔附〕 『舞踊藝術』連載 折口信夫「日本芸能史(二)〜六」 (昭和十七年十一月〜昭和十八年四月 舞踊藝術社発行) 池田彌三郎ノット 折口信夫公開講座「日本芸能史」 翻刻池田光・伊藤好英 (昭和十六年六月二十四〜二十六日 舞踊藝術社主催)



支那劇の原始形態について(一)

奥野信太郎

支那の演劇は、その歴史が極めて古く、その形態もまた多岐にわたる。その中でも、最も古く、最も盛んなのは、戯曲である。...



国家と藝能(一)

戸板香實

国家と藝能の関わりは、古くからある。国家は、藝能を通じて国民の心を統一し、その力を高める。...



歌舞伎語彙(一)

戸板香實

歌舞伎の用語は、その数多く、その意味もまた多岐にわたる。ここでは、その中でも、最も重要なものを紹介する。...



# 藝能 (昭和十八年五月～昭和十九年九月) 復刻版 全1巻

伊藤好英 監修・解説 藝能学会 企画

定価 18,700円 (税込) ISBN 978-4-86670-097-7 C3073

A5判／ハードカバー／2021年6月25日刊行

## クレス出版 好評既刊書 (定価はすべて税込)

折口信夫が主宰して三年間だけ発行された幻の雑誌を復刻。全33号を収録

### 日本民俗 復刻版 全1巻

小川直之 監修・解説

第1号 (1935年8月) ～第33号 (最終号：1938年8月) 完全収録

定価 18,700円 ISBN 978-4-87733-996-8



古来より受け継がれた年中行事の背景を探る——年代ごと・地域別・テーマ別に収録

### 日本年中行事選集 全二回全九巻 小川直之 編・解説

第一回配本 全五巻 揃定価 96,800円 ISBN 978-4-86670-011-3 (セット)

第一巻 歴史資料編 定価 18,150円 ISBN 978-4-86670-006-9

第二巻 地域民俗編 (1) 定価 20,900円 ISBN 978-4-86670-007-6

第三巻 地域民俗編 (2) 定価 17,600円 ISBN 978-4-86670-008-3

第四巻 寺社・祭礼編 (1) 定価 19,800円 ISBN 978-4-86670-009-0

第五巻 寺社・祭礼編 (2) 定価 20,350円 ISBN 978-4-86670-010-6

第二回配本 全四巻 揃定価 93,500円 ISBN 978-4-86670-032-8 (セット)

第六巻 明治後期編 定価 20,900円 ISBN 978-4-86670-028-1

第七巻 大正・昭和初期編 定価 25,300円 ISBN 978-4-86670-029-8

第八巻 昭和戦前・戦中編 定価 19,800円 ISBN 978-4-86670-030-4

第九巻 昭和戦中・戦後編 定価 27,500円 ISBN 978-4-86670-031-1



近代の神道研究を大成させた宮地直一・西田長男・津田左右吉らによる六冊の著作を復刻

### 神道研究選集 全6巻

第1巻 神祇史 定価 7,700円 ISBN 978-4-87733-850-3

第2巻 続神祇史 定価 11,000円 ISBN 978-4-87733-851-0

第3巻 神道史の研究 定価 11,000円 ISBN 978-4-87733-852-7

第4巻 神道史の研究 第二 定価 22,000円 ISBN 978-4-87733-853-4

第5巻 日本古典の史的研究 定価 17,600円 ISBN 978-4-87733-854-1

第6巻 日本の神道 定価 11,000円 ISBN 978-4-87733-855-8

揃定価 80,300円 ISBN 978-4-87733-856-5 (セット)



戦時下に刊行された文学、武道、宗教、歴史、建築等に関する論集を全号復刻

### 日本文化 全10巻 日本文化協会 発行 井上順孝 解説

第一回配本 全7巻 第一冊～第六十三冊 (昭和12年7月～昭和15年11月)

揃定価 104,500円 ISBN 978-4-87733-488-8 (セット)

第二回配本 全3巻 第六十四冊～第九十七冊

(昭和16年1月～昭和18年12月、昭和19年12月)

揃定価 55,000円 ISBN 978-4-87733-489-5 (セット)



〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町14-5 メローナ日本橋  
☎(03)3808-1821 ㊟(03)3808-1822 <http://www.kress-jp.com/>



株式会社クレス出版

●書店名